

入梅してしまいましたね。といっても、稲にとっては恵みの雨。田植え以来、毎朝晩水の見回りをしている耕太にとってもありがたい雨。雨の日は、田んぼが乾く心配がないので、見回りをずいぶん省略してもいいのです。梅雨前にやらなければ、と思っていたことがたくさんある私が一人で焦っている感じです。皆さんにとってはジメジメしてぱっとしない季節なのではないでしょうか。

さて、田植えが終わったその直後から草との戦いが始まっています。私はドイツから帰国した翌日から田んぼに復帰。時差ぼけなんて言ってもらえません！機械で植えにくい角隅や、うまく植えられていなかったところを手で植えるのです。平日は讃太郎と二人でやるのですが、休日は強力な助っ人部隊。いやあ、一年生の双子、本当によくやってくれます！おかげで一気にはかどりました。



「めうえ」と呼ばれる補植が終わると、間髪いれずに雑草対策スタート。ここで改めてO2ファームの除草についてご紹介します。

広い田んぼではアイガモが、狭くても水が溜めやすい田んぼではコイが、そしてアイガモを入れるには狭いけど、コイを入れるには水が管理しにくい田んぼでは、私たち人間が草取りをします。

アイガモは、イネ科の草を好みません。つまり稲は食べないのですが、それ以外の雑草と虫をせっせと食べる万能な選手。ただし、人に慣らしておかないと田んぼから引き上げるのが大変なので、毎日くず米などで餌付けをします。田んぼの周囲にネットを張り巡らせるのも結構な手間。コイは田んぼの中を泳ぎまわることによって、雑草や種を浮かせ、さらに水が濁り、それによって草が生長するのを防ぎます。ただし、サギにやられたり、ちょっとでも浅いところがあるとそこにはいかなかったりと、除草効果はアイガモほどではありません。

草をとるために燃料を使いたくない、と頑なに除草機を拒んでいたのですが、今年から栽培面積が急増し、人力ではとても処理しきれない面積になったので、やむを得ず動力除草機なるものを導入しました。田んぼが増えた理由は、「もう今年で最後」と言いながらも頑張っていた集落のお年寄りたちがついに「今年は頼む」と言ってきたからです。就農して10年





目。やっと少しは頼られる存在になったということでしょうか？除草機は自走するので去年までよりずっとラクではありますが、株と株の間の草は残ってしまいます。というわけで、完璧な除草というのはなかなかないわけでありまして、農薬ってのは本当にすごいなあ、と毎年感心する反面、やはりよく考えると恐くもなってしまいます…。

「今年は頼む」と言われた田んぼの中に、棚田で条件が悪く、イノシシも出るので、我が家だけでは手が回らずに、借りるのを躊躇していた田んぼが3枚ありました。おじいさんが今年の冬に亡くなられ、作られなくなったのです。奥様から頼まれたものの、うーんどうしたものかと悩む耕太。一方、ここ数年で南阿蘇に移住してきた同年代の仲間たちから「お米作ってみたいなあ」という声がチラホラ出ていたので、「みんなの田んぼ」にしよう！ということになりました。呼びかけたところ、集まった7人のサムライたち。大半が脱サラして南阿蘇で新たな生き方を模索しているメンバーです。まずはお墓参りをしてから、1日のうちに水路の整備、畦の草刈りなどの準備を次々と進めます。すごい、すごい！田起こしと代掻きだけは耕太がトラクターでやりました。翌週、コシヒカリを植えるには時期が遅すぎたので、ヒノヒカリという品種の苗を手と歩行式の田植え機で植えていました。耕太や私は本業があるので、「みんなの田んぼ」は参加する人自身が管理するのが基本。みんな代わる代わる田んぼの様子を見に来ています。ビギナーズラックでたくさん収穫できたりして！？



これからの1ヶ月はまさに草との熾烈な戦い。7月下旬には穂が出始めるので、それまでの勝負。田んぼの草と畦や水路の草。水路際の草だって、刈ってから2週間も経てばこんな！草切りで1週間、草取りで1週間。そしたらまた草切り…。春はやることの種類が多いですが、夏はやることの量が多いんです。



先月ドイツ取材に行った時の記事が熊本日日新聞で8回に渡り連載されました。インターネットでも見られますので、ぜひご覧下さい(<http://kumanichi.com/feature/sougen/>)。

さて梅雨が明けたら夏本番。冷房の要らない阿蘇の夏は本当に最高。節電の夏、今からでもぜひ計画をたてて、遊びにいらしてくださいね！